

1 競漕艇(ボート, 艇)

競技上の競漕艇は、以下のように「定義」される。

(JARA・競漕規則 2024.4, 定義等一覧表)「ローイング」
 「オールを艇子の原理(第2種:力点-作用点-支点の並び)で使い、艇の進行方向に背を向けて座り、一人もしくはより多くの漕手の筋力で、水上に浮かぶ艇を推進させるスポーツ。艇の舵を操作する舵手(「コックス」ともいう。)が乗艇する場合と乗艇しない場合がある。艇の中では、可動部分の軸を含む全ての耐荷部位は、艇本体にしっかり固定されていなければならない。ただし、シートは艇の軸に沿って動くものとする。ローイング競技の動作を再現する、器械の上またはローイング・タンクにおける競技もまた、ローイング競技の一形態と考えられる。」

規定とサイズ 艇には最小重量の規定があり、エイト96kg～シングルスカル14kg「以上」である。長さは比較的自由で、エイト約17m、フォア約13m、シングルスカル約8mだが、11.9mを超える場合は分割構造が必須となる。シングルスカルは、最短長さが7.20m以上の規定がかかわる。他に、艇の構造について、安全上の規定(例:パウポール、クイックリリース(かかとの拘束など)、浸水時の予備浮力、オールの前端の厚みなど)もある。



水中翼などの奇抜なアイデアも禁止される。革新的な装置を国際大会や、競漕規則が適用される大会に導入する場合は、事前公開と、1年以上の市販が必要となる。

2 オール

オールは、艇によって、スイープとスカルの2種類がある。

種類	1人の漕手が	長さ	重量
スイープ	片側1本を漕ぐ	約3.8m	2.5kg
スカル	両側計2本を漕ぐ	約2.9m	1.3kg×2

スイープとスカルは、そのオールを使う「艇」の種類としても使われる(→スイープ艇、スカル艇など)。また「オール」を、狭義のスイープだけの意味に使うこともある。



スイープオール(左)は長く、スカルオール(右)は短い。

3 艇の種類(競漕種目)

競漕艇には、9種類のシェル艇と、ナックルフォアがある。

ナックルフォアは、日本の独特の艇種である。つきフォアと同じ舵手付きの4人漕ぎスイープ艇だが、横断面形状が指関節を曲げたように平面的である。主要な全日本大会では廃止されたが、マスターズや市民レガッタで、なお採用されている。

競漕艇の主な艇種 重量: 最小重量 艇速: エイトを100としてのおよその艇速指数(私算)

種目	略号	舵手	漕手	タイプ	全長	重量	艇速	解説
エイト	8+	○	8	スイープ	約17m	96kg	100	漕艇の中では最も速い。
クオドルプル(舵手なし)	4×	—	4	スカル	約12m	52kg	96.2	エイトについて速い。
舵手つきクオドルプル	4×+	○	4	スカル	約13m	53kg	91.9	日本でジュニア、女子種目など
フォア(舵手なしフォア)	4-	—	4	スイープ	約12m	50kg	94.0	国際的に主流。
舵手つきフォア	4+	○	4	スイープ	約13m	51kg	89.6	日本では最も普及。
ダブルスカル	2×	—	2	スカル	約10m	27kg	88.5	2人漕ぎでは一番速い。
ペア(舵手なしペア)	2-	—	2	スイープ	約10m	27kg	85.2	最も繊細なバランス技術が必要。
舵手つきペア	2+	○	2	スイープ	約11m	32kg	79.2	1×より遅い。
シングルスカル	1×	—	1	スカル	約8m	14kg	80.7	唯一の個人種目。
↓ マスターズ、市民レガッタなどで使われている艇								
ナックルフォア	KF	○	4	スイープ	約11m	105kg	79	船底にキールがあり、V字型

※艇速指数は随時見直し。20210602 改訂 0.1で表示するが、精度は±0.5~1程度 名称補足: 舵手なし艇については、公式名称では「舵手なし」、「なし」をつけないこととなった。